

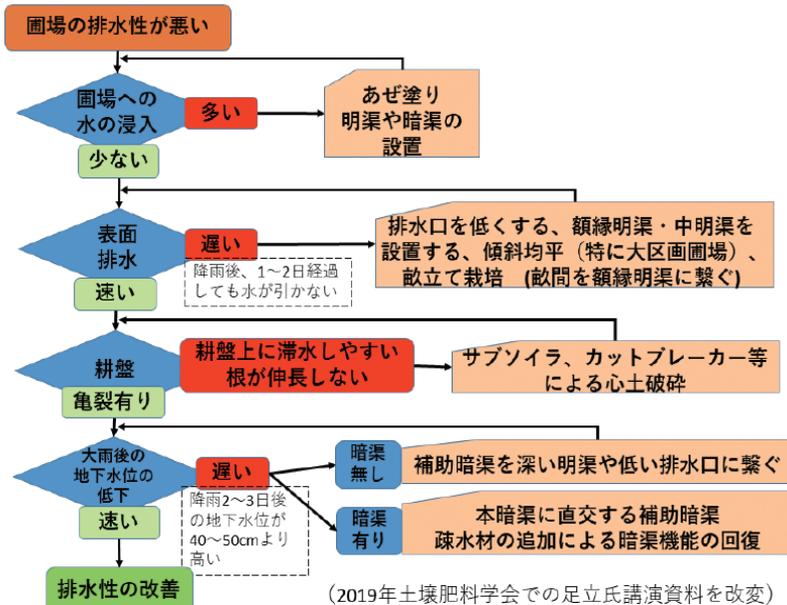
湿害を回避！ 「大豆の生産性向上技術」 (排水対策)

○ 収量・品質低下の主な要因となっている「湿害」を回避するため、圃場の状態を確認し、適切な排水対策に取り組みましょう。

【基本的な営農排水対策のチェック・フローと対策】

- ① 圃場周辺からの浸水の有無
- ② 降雨後の土壌表面の滞水状況
- ③ 耕盤上の滞水や根の伸長状況
- ④ 降雨後の地下水位の低下速度

を確認し、問題があればそれぞれに対応した対策を講じましょう。



【主な排水対策】

- 明渠・額縁明渠・中明渠・補助暗渠の設置
水田への入水前までに圃場内の明渠や補助暗渠を設置し、高い排水効果を確保しましょう。
- アップカットロータリーによる耕うん畦立て同時播種
爪が逆回転することで粗い土の下層、細かな土の上層の2層構造となり、排水性が高まります。



イラスト引用：小嶋工業HPより

- サブソイラ・カットブレーカー等による心土破碎
トラクタ・コンバイン等の重量が原因で出来た硬く締まった層(耕盤層)を破碎することで、排水改善と大豆の根域拡大による生育改善効果が高まります。



カットブレーカー(2列、オプション3列)
(農研機構農村工学研 北川氏より)

導入の効果

排水対策に取り組むことにより、
発芽不良や生育不良を防ぎ、安定した収量を確保することが出来ます。